



和歌山県 情報職員 採用案内 2019

ICTを活用して、和歌山から日本を一緒に盛り上げていきませんか？

和歌山県情報職 - 採用担当者からのメッセージ



和歌山県 企画部 企画政策局 情報政策課長

天野 宏

(要約：野心的な者、求む!!!)

現在、IoT、AI、5G等、情報通信技術（ICT: Information and Communications Technology）に関するニュースを目にしない日はありません。また、実生活においても、一昔前は新聞・TVで情報を入手し、役所等の色々な手続きを行うためにはそれぞれの場所に直接訪問しなくてはならなかったのですが、現在はICTの発展により、なんでも・どこでも・いつでも簡単にできるようになりました。もちろん、仕事においても同様で、役所・民間企業においてはActivity Based Workingやテレワーク等のロケーションフリーの志向が高まっていますし、また、工場や農地等の労働現場でも産業問わず様々な場面でIoTやドローン、AI等のICTが活用されています。

そのように、ICTを効率的・効果的に活用できるか、また、その急速な発展に対応していけるかということが、ビジネスの成功や生活の質の向上のためには重要になってきましたが、それにアクセスするためには適切な環境が用意されている必要があります。

しかし、そのような環境があるかないかは自治体によって異なっているのが現状です。むしろ、そのような環境が備わっていない自治体はこれからの発展において立ち遅れ、企業・人が流出してってしまう一方で、常に先端的なICT施策を行う自治体にはヒト・モノ・カネが集まるといふ社会構造になりつつあります。

和歌山県の場合はどうでしょうか。日本で、あるいは、おそらく世界で初めて、第五世代型移動通信技術（5G）の医療分野における実証試験を、NTTドコモとともに実施し、世界中の専門家から注目されています。また、和歌山県白浜町では情報セキュリティシンポジウムが20年前から実施されており、現在は日本最大級かつ最古のものとして、3日間でのべ約1,500人が参加しています。更に、白浜町にはサテライトオフィスが整備され、10社以上の企業が現在進出しており、最近では和歌山県が全国に先駆けて始めたワーケーションが全国的に流行の兆しを見せており、これまで100社近くのメディアで報道されたところです。

また、和歌山県は行政用超高速通信網のきのくにe-ねっとを整備する等の庁内・自治体間の通信の強化に努めており、そのような基盤を活用し、モバイルワークやBYODも導入され、職員の生産性も非常に向上しています。最後に、RPAも庁内の様々な課室で利用が開始しており、残業時間が100時間以上削減されたという実績も出ており、今後様々な課室に展開することで、無駄なタスクをなくし、職員がより創造的な仕事に取り組めるような環境も整えています。

以上の取組は、他のどの都道府県にも負けないものですし、そのため全国から注目が集まっています。もちろん、上記取組は民間企業や国・市町村との連携・協力によって成し遂げられてきたものですが、それを構想し、着手し、継続的に取組を進めるためには、県職員個人の先見性（ビジョン）・熱意・主体性がなくてはなりません。

私は、情報職職員にはICTに関する細かい知識や経験は求めません。むしろ、自分なりの和歌山県の将来像を持っているか、それを実現するためにどのような技術・取組が必要かを自分自身で考えられるかどうか、また、継続的に自分自身をアップデートしていけるか、そしてそれらを自分自身で楽しいと感じられるか、が重要だと考えています。

和歌山県にはフィールドがあります、前向きに協力してくれる方々もいます、そしてあなたの挑戦を後押しする仲間がいます。面白い仕事をするための条件は揃っていますので、みなさんの挑戦を心からお待ちしております。和歌山を日本の最先端の地にし、和歌山から日本を変えていきましょう!!!

和歌山県の現状

和歌山県では、県民のみなさまが楽しく暮らせるために、交通ネットワークの充実、戦略的な観光政策による観光客の増加、出産・子育て環境の充実、先進的な防災対策の推進、企業への充実した支援体制の整備など「将来を拓く礎」を築いてきました。

しかしながら、本県を取り巻く状況は、本格的な人口減少社会の到来や相次ぐ大規模自然災害の発生、経済・社会のグローバル化の進展、情報通信技術等の急速な進歩など大きく変動しています。こうした時代の流れに取り残されることなく、状況の変化に適切かつ迅速に対応していくため、『世界とつながる愛着ある元気な和歌山』～県民みんなが楽しく暮らすために～」をめざす将来像とし、ICTについても以下の通り各種施策を実施しています。

情報政策課のミッション

情報通信技術（ICT）を最大限活用することにより、『元気な和歌山』を実現する！！

3つのアクション

1. 情報発信力・災害対応力の強化 ＜安全、安心＞	2. 行政事務の効率化・行政サービスの向上 ＜便利＞	3. 産業振興・地域課題の解決 ＜活力＞
<p>◆<u>通信インフラの整備</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ▷ 県情報ハイウェイの整備 ▷ 携帯電話不感地域の解消促進 ▷ 超高速ブロードバンド整備促進 <p>◆<u>ラジオ受信環境の整備</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ▷ 防災・減災 FM 中継局の整備 ▷ ラジオ受信相談窓口の開設 <p>◆<u>災害時連携体制の構築</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ▷ 南海トラフ地震等に備えた通信 ▷ 事業者等との連絡体制、対応 ▷ マニュアル整備、訓練実施 	<p>◆<u>県庁内情報システム最適化</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ▷ マイナンバー対応 ▷ システムの統合・集約化 ▷ セキュリティ・サイバーテロ対策 ▷ 地理情報システム（GIS）の運用 <p>◆<u>市町村効率化・強靱化支援</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ▷ 自治体クラウド（基幹系クラウド、情報系クラウド）の推進 ▷ マイナンバー対応支援 ▷ きのくに e-ねっとの共同利用 	<p>◆<u>ICT人材育成、事業支援</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ▷ 県立情報交流センター「Big・U」での講習等による ICT 活用力向上 ▷ Big・U の SOHO ブース等を活した、起業家支援、研究推進 ▷ ICT 企業、イベントの誘致推進 <p>◆<u>各分野での ICT 利活用推進</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ▷ 県情報ハイウェイを活用した医療情報連携の推進 ▷ オープンデータ利活用の推進 ▷ ソーシャルメディアサービスを利用したネット広報

情報政策課の業務

行政情報化班

行政機関としての県・市町村の電子化を推進すること等を目的に、以下の業務を行っています。

- ・ 自治体クラウドの推進
- ・ 自治体情報セキュリティクラウドの推進
- ・ 情報セキュリティ管理
- ・ 電子県庁の推進
- ・ 情報通信分野の防災・災害対策 など

ICT 利活用推進班

ICTを利活用した施策の推進や県内の情報通信基盤整備の推進等を目的に、以下の業務を行っています。

- ・ ICT 利活用推進(ワーケーションプロジェクト)
- ・ ICT 企業・技術者誘致
- ・ Big・U 利活用
- ・ 5G (第5世代移動通信システム)
- ・ ブロードバンド基盤整備 など

ネットワーク班

県職員や県内自治体等が利用する情報通信基盤の整備等を目的に、以下の業務を行っています。

- ・ 行政ネットワークの企画・構築・運用
- ・ シンクライアントシステムの企画・構築・運用
- ・ 行政事務用パソコンの調達・運用
- ・ インターネット接続環境の整備・運用
- ・ 総合行政ネットワーク (LGWAN) など

システム班

県の庁内システムの運用や最適化を推進すること等を目的に、以下の業務を行っています。

- ・ 庁内グループウェアの運用
- ・ 地理情報システム (GIS) の運用
- ・ 庁内の情報システム開発等の事前協議
- ・ オープンデータ
- ・ 職員の IT 人材育成 など

情報政策課以外の主な ICT 利活用業務例

企画総務課 (データ利活用推進センター)

- ・ データ利活用促進に関する国との共同研究
- ・ データ利活用推進に関する啓発活動
- ・ データ利活用人材の育成
- ・ EBPM 推進、データ利活用分析基盤整備
- ・ データ利活用に関する企業との連携 など

防災企画課

- ・ 津波予測システムの運用
- ・ 気象予報業務 (津波) の運用
- ・ 総合防災情報システムの運用
- ・ 「和歌山県防災ナビ」アプリの運用
- ・ 防災行政無線の運用 など

企業立地課

- ・ ICT 企業の誘致交渉
- ・ 進出企業のフォローアップ
- ・ ICT オフィスの整備 など

関係機関への派遣

最新の知見の入手、外部機関との関係構築、職員の成長等のため、和歌山県は職員の希望・能力等に基づき、外部機関に職員を派遣しています（情報職の主な派遣先については以下の通り）。

地方公共団体情報システム機構（J-LIS）

◎ J-LISとは

平成 26 年 4 月 1 日に地方共同法人として設立され、マイナンバー制度関連システムの構築や地方公共団体の情報化推進を支援するための各種事業を行っている（所在地：東京）。LGWAN や住民基本台帳ネットワークの全国センターを運営。

◎ LGWAN とは

1,700 以上の全自治体を接続する日本有数の巨大閉域ネットワーク。自治体間や自治体と中央省庁間のメール送受信、マイナンバー関連システム等の通信が行われている。

◎ J-LIS での業務内容（⇒P.9 先輩職員の声参照）

- ・ 第 4 次 LGWAN への移行に関する自治体等関係機関との調整 など

国研海洋研究開発機構（JAMSTEC）

◎ JAMSTECとは

海洋に関する基盤的研究開発、海洋に関する学術研究に関する協力等の業務を行い、海洋科学技術の水準向上、学術研究の発展に資することを目的とした組織（所在地：横浜）。

本県とは DONET 観測情報の利活用に関する協定を締結している。

◎ JAMSTEC での業務内容

- ・ 津波シミュレーション技術の習得
- ・ 津波予測システムの開発
- ・ 気象予報業務（津波）の運用に必要な技術的知見の習得
- ・ 津波防災対策の研究
- ・ 津波防災対策の最新情報収集 など

人材育成方針

情報職については、情報通信分野の知見を有しながら県庁全体の仕事に通じるよう人材育成を行うことにしています。その後、各職員の適正に応じて、ジェネラリスト（情報通信分野の知識を活用し多様なフィールド・職務で活躍する職員）又はスペシャリスト（情報通信分野に特化した専門家）のいずれかの道を歩んでいただくこととなります。

配属・昇進について

原則として、採用から 2 年ないし 3 年程度情報政策課で勤務した後は、情報政策課以外の所属において勤務させるローテーションとし、その後も本人の希望と適正を考慮しながら、情報職が必要な所属に配置します。

なお、昇任については、比較的早いペースの昇任は経験年数 12 年で主査となり、8 年の主査経験を経て主任になるケースです。

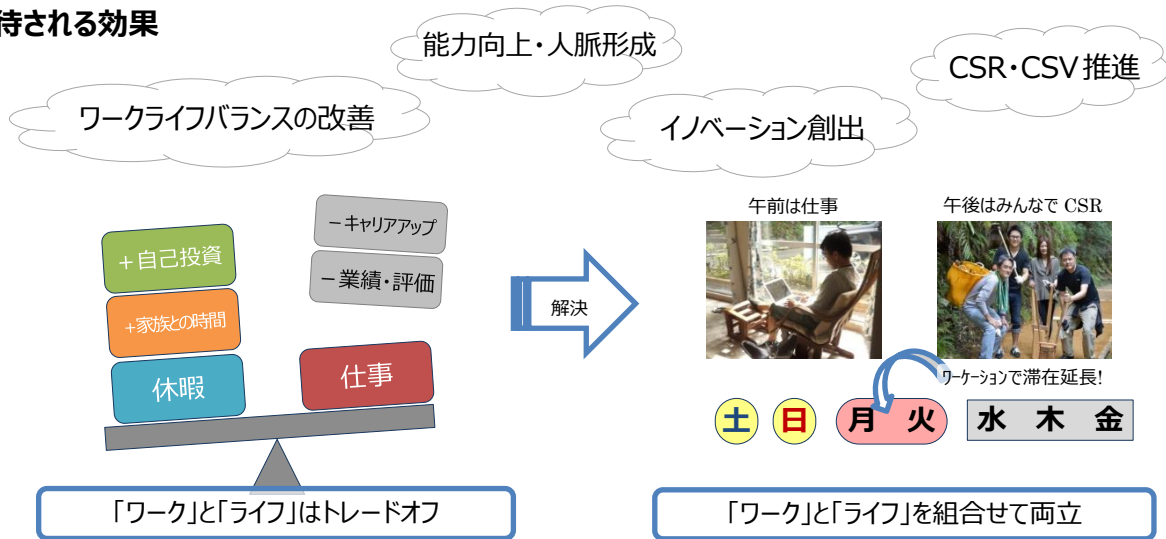
昇任試験を実施していないので、昇任は人事評価等を踏まえ、総合的な能力・実績主義に基づいて判定し、やる気・能力のある若手職員の抜擢人事も行います。

→ 和歌山発 全国で盛り上がりを見せるワーケーション

○ Work + Vacation = Workation !

ワーケーションとは、リモートワークを活用し、リゾート地等の環境の良い場所で、休暇や研修等を兼ねて短中期的に滞在し仕事を行う取組です。休暇の取得促進だけでなく、地域主体との協働や地域の資源を活用したイノベーションの創出や新しい生き方の発見等に繋がる働き方です。

○ 期待される効果



○ 国内外の企業が和歌山でワーケーション！

首都圏企業を対象に、フォーラムの開催、体験会等通じ、和歌山県がワーケーションの適地であることを積極的にPRした結果、H29年度は240名が和歌山でワーケーションを実施。また、H30年の6月に世界的なウェブサイト構築ツールを運営する米 Automattic 社の社員10名が海外各地から和歌山に訪問、8日間ワーケーションを実施。

✂ ピックアップ

→サイバー犯罪に関する白浜シンポジウム ～日本最古の情報セキュリティシンポジウム

○ 日本最古（平成9年から開催）の情報セキュリティシンポジウム。警察を中心に国内外の産学官の情報セキュリティ専門家が集まり、情報交換・議論・人脈構築を促進することで、サイバー犯罪に対するより正確かつ円滑な対応体制の構築促進を目的に開催。3日間でのべ約1,500人が全国より参加。

○ シンポジウム ～国内外の情報セキュリティ専門家が和歌山県に集結

国内の情報セキュリティの専門家をはじめ、過去には海外からFBIや米国国家安全保障局からの講演者を招聘。

(昼の部)

会場 和歌山県立情報交流センター
Big・U (田辺市)

内容 講演、協賛企業による展示 等

(夜の部)

会場 ホテルシーモア (白浜町)

内容 交流会、テーマごとに情報交換、等

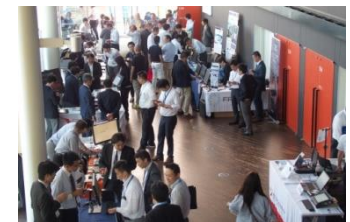
○ 情報危機管理コンテスト

～リアルタイムなインシデント解決力を試すユニークなコンテスト

情報セキュリティ人材の育成を目的とした学生コンテストを開催。毎年、全国から数多くのチームが参加し、シンポジウム期間中に、予選を勝ち抜いた5チームが決勝戦を競い合う。優秀な成績を修めたチームには経済産業大臣賞と文部科学大臣賞、個人にはJPCERT/CC賞が授与される(予定)。



▲ 講演



▲ 協賛企業展示



▲ 情報危機管理コンテスト

主催：サイバー犯罪に関する白浜シンポジウム実行委員会

構成：NPO 情報セキュリティ研究所（事務局）、ISACA 大阪支部、近畿大学生物理工学、白浜町、和歌山県、和歌山県警察本部、和歌山大学

→ソフトウェアを使った定型事務の自動化（RPA：Robotic Process Automation）の共同研究

- 人的資源が限られた状況において、増大する課題に効率的かつ効果的に取り組むため、庁内の既存事務における「作業時間」を抜本的に削減する必要がある。
⇒ 新たな ICT を活用した「働き方改革」への取り組みとして、**RPA** に着目。

○ 取組

県の市町村課、税務課及び調査統計課の複数の事務に RPA を適用し、その有用性を検証。

- ・ RPA を使って一部を自動化した県の事務

☑市町村課

⇒総務省依頼に基づく市町村照会集計に伴う作業等

☑税務課

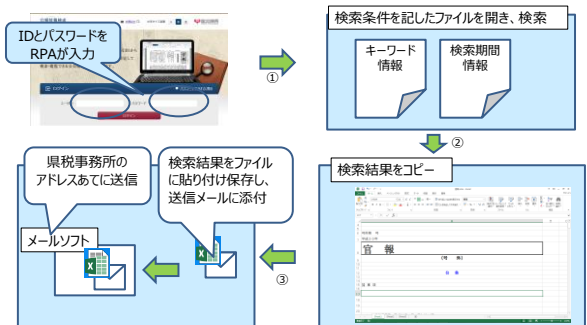
⇒ WEB 上で官報情報を検索し取得する作業、
滞納整理進行管理表に必要な情報を入力更新する作業

☑調査統計課

⇒ 毎月勤労統計調査に関する調査結果速報作成作業、
消費者物価指数の調査結果速報作成作業

- 税務課（官報情報検索サービスから取得した情報を県税事務所へ通知）

毎月Web上の検索サービスから取得した官報情報を指定フォーマットに入力し、
県税事務所へ、**最新情報をメールで送信する作業を自動化**



○ 成果

- ・ 削減が見込まれることを確認できた時間数

市町村課…… 30 時間/年(約 85%削減)

税務課………198 時間/年(100%削減)

調査統計課… 42 時間/年(約 58%削減)

- ・ 作業ミス削減による業務品質の向上
- ・ 更に、対象件数が万単位となる Web 検索作業など、人手では困難な作業も可能。

○ 今後

RPA を本格的に導入し、情報職員が庁内各課の職員を指導するなど、適用業務の拡大、庁内業務の効率化を進めていく。

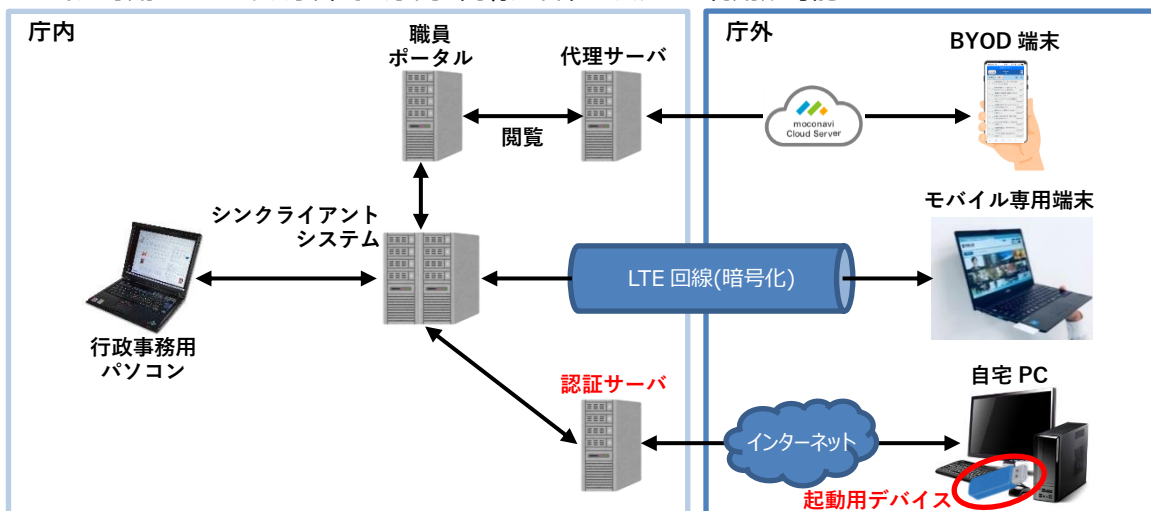
≡< ピックアップ

→働き方改革を支えるネットワーク・デバイス

- 職員の多様な働き方を推進し、ワークライフバランスの確立を図るためには、行政事務にて利用するコンピュータデバイスやネットワークも改革を行う必要があります。

「いつでも、どこでも、どのデバイスからも庁内と同じ事務環境を安全に実現」をコンセプトに、各種デバイスやネットワークの整備を行い、職員の生産性向上による、県民・企業等へのサービスレベルの向上を図っています。

- ・BYOD 端末から職員向けポータルサイト（メール、スケジュールの確認）の利用
- ・モバイル専用 PC により、庁外でも庁内と同様に各種システムの利用が可能



今後、自宅パソコンから安全に庁内システムを利用する方式の検討（起動用デバイスや新しい認証基盤）在宅勤務等に対応したネットワークの構築を目指します。

先輩職員の声

ベテラン 情報政策課 栢木 厚 主任



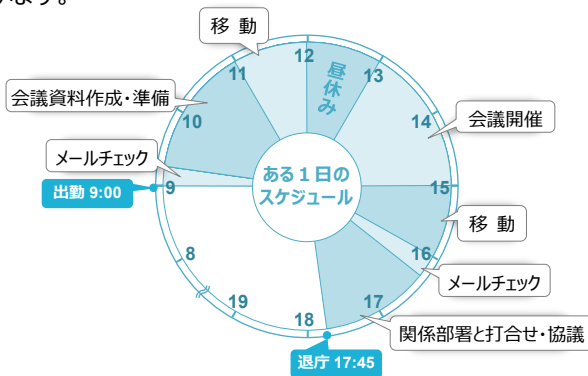
和歌山県に採用される前は、民間事業者において西日本の府県の税システムを中心にシステム開発を担当しており、民間事業者の立場から自治体職員の方と仕事しておりました。この経験を活かし、是非とも地元、和歌山県に帰り貢献したいと思い、採用試験を受けました。

現在は庁内の情報セキュリティをはじめ、自治体クラウドや自治体情報セキュリティクラウド等の県内市町村の情報推進に対する技術的な助言や調整役等を担当しています。

情報セキュリティについては、情報セキュリティポリシー等の制度面から庁内の情報セキュリティの確保を目的に、情報セキュリティ研修、所属内点検や内部監査等を通じて、情報セキュリティの重要性を啓発しています。その他にも、サイバー犯罪に関する白浜シンポジウムにおいては、運営スタッフとしてシンポジウムの準備、運営を担当しています。シンポジウムには国内外の産学官の情報セキュリティ専門家が参加者されており、普段ではお会いする機会のない方々と情報交換させていただくことができ、大いに刺激を受けております。

また、クラウドについては、県内市町村の担当者の方と幾度となく勉強会や検討会を開催し、意見交換させていただいたことで信頼関係を築くことができ、私の財産となっています。県内市町村に御理解と御尽力いただいた結果、自治体クラウドについては総務省から先進県と評価をいただき、自治体情報セキュリティクラウドにおいても、全国でいち早くまとめ上げることができました。

仕事を進めて行く中では、関係部署や事業者との調整等大変なことも多々ありますが、それ以上に大きなやりがいを感じることができます。みなさんのITの知見とマネジメント力を十分に発揮できる職場だと思います。熱意のあるみなさんとお会いできるのを楽しみにしています。



略歴

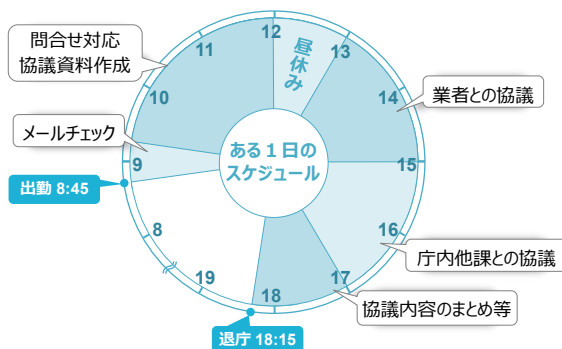
- H05.4 和歌山高等技術専門学校(職業指導員)
- H09.4 情報システム課(技師)
- H11.4 和歌山高等技術専門学校(副主査)
- H19.4 和歌山産業技術専門学院(主査)
- H25.4 情報政策課(主査)
- H27.4 情報政策課(主任)

中堅 情報政策課 石橋 正信 主査



私は入庁以来、県庁内ネットワークの運用管理を中心に、防災企画課にて防災情報システムや津波予測システムの運用などの業務に、また、海洋研究開発機構に派遣され、スパコンを利用した津波シミュレーション技術の習得や津波予測システムの開発にも携わりました。

現在、私が属する情報政策課ネットワーク班は、県庁各機関や市町村等を繋ぐ情報ハイウェイ「きのくに e-ねっと」や、県職員が日々の業務で利用する「シンクライアントシステム」を運用管理しています。これらが停止すると県の業務が停滞するため、高い可用性を備えた設計であることは当然ですが、トラブル時には即座に解決する対応力が問われます。また、機密性の高い情報を扱うためセキュリティの確保が必須であり、堅牢な設計とした上で日々厳重な監視を行っています。新たなネットワークやシステムを構築する際には、そのような点に十分配慮しつつも、使い勝手の良いネットワークを意識する必要があります。まさに「情報技術の知識を活かせる」業務だと思います。和歌山県の未来のために、みなさまの知見をフル活用してみたいかがでしょうか。



略歴

- H12.4 情報システム課(技師)
- H17.4 県立医科大学総務課(技師)
- H18.4 総務学事課(技師) (県立医科大学へ派遣)
- H19.4 総務学事課(副主査) (県立医科大学へ派遣)
- H20.4 情報政策課(副主査)
- H24.4 情報政策課(主査)
- H25.4 医務課(主査)
- H26.4 総合防災課(主査)
(国立研究開発法人海洋研究開発機構へ派遣)
- H28.4 防災企画課(主査)
- H30.4 情報政策課(主査)

ベテラン

企画総務課（データ利活用推進センター） 中内 啓文 主幹

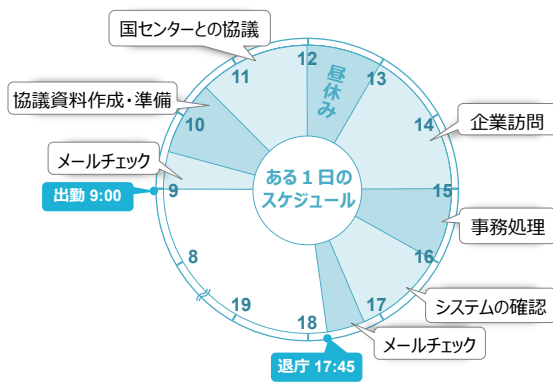


これまでに、県庁内の基幹系システムの構築や最適化（ネットワーク、シンクライアントシステムの導入）、医科大学移転（医科大学オーダリングシステムの導入）、防災情報システム、津波予測システムの構築等に携わってきました。

現在は、政府が東京一極集中の是正や地方創生を目的として実施した「政府関係機関の地方移転」の一つとして総務省統計局と独立行政法人統計センターの一部移転が実現し2018年4月に開設された「統計データ利活用センター」と一緒になってデータ利活用の促進に尽力しています。

ここ和歌山が、誰もが認める「日本のデータ利活用拠点」と呼ばれることを目指し、本県独自の新たな知見を見いだす研究をはじめ EBPM（証拠に基づく政策立案）への取組や行政課題の解決に向けたデータ利活用、未来のデータサイエンティストとなり得る人材育成、県内外に向け活発な普及・啓発活動に取り組んでいます。

和歌山県は、あらゆる分野で先進的で大胆な政策を数々と打ち上げており、情報処理の分野においても、“世界で初めて”、“日本で初めて”といった施策を次々と提案し実現してきました。これからもICTの技術はあらゆる分野で深く関わっていき、さらに加速していくことから、行政という世界で皆様と一緒に新たなチャレンジをしていけることを心待ちにしています。



略 歴

- H05.4 情報システム課(技師)
- H09.4 県立医科大学附属病院(技師)
- H12.4 情報システム課(副主査)
- H16.4 情報システム課(主査)
- H19.4 情報政策課(主査)
- H23.4 総合防災課(主査)
- H24.4 総合防災課(主任)
- H26.4 防災企画課(班長)
- H29.4 企画総務課(課長補佐 兼 班長)
- H30.4 企画総務課(主幹 兼 データ利活用推進班長事務取扱)
(和歌山県データ利活用推進センター長)

若手

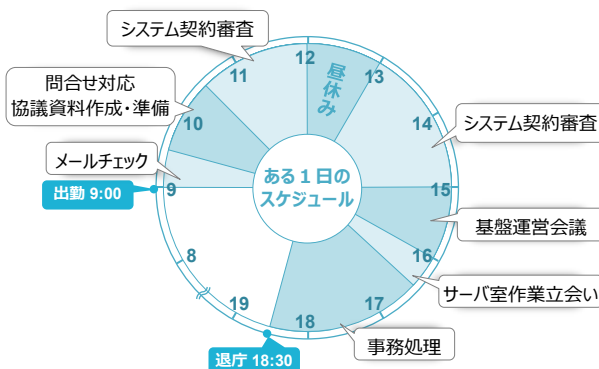
情報政策課 射場 梢 技師



私は大学卒業後に民間経験なく和歌山県に採用されました。2年間は官民連携の情報関係イベントのお手伝いや、ICTを活かした和歌山県のPRなど、主に対外業務に従事しました。0から始まったプロジェクトが成功していく過程を内部から経験し、社会人の基礎から問題へのアプローチ方法など、たくさんのごことを学ばせていただきました。

3年目は庁内システムに携わる業務を希望し、念願かなってシステム班に配属されました。庁内システムの契約審査、複数システムが同居する共通サーバの運営、情報関係の相談対応など、内部向けの仕事をしています。ほとんど何もわからない状態でスタートしましたが、先輩方のレクチャーを受けて、業務を遂行することができました。各ネットワーク階層を理解し、システムの構成図を作ることができた日は、成長を実感してとても嬉しかったことを覚えています。

内部・外部向けの業務を経験して、共通して重要だと感じたスキルがあります。それは「必要なことを聞き取る質問力」と「わかりやすく伝える説明力」です。技術の知識量と共にまだまだ不十分だと感じておりますので、今後も関係者とのコミュニケーションを意識しつつ、庁内システムの運用に努めたいと思います。



略 歴

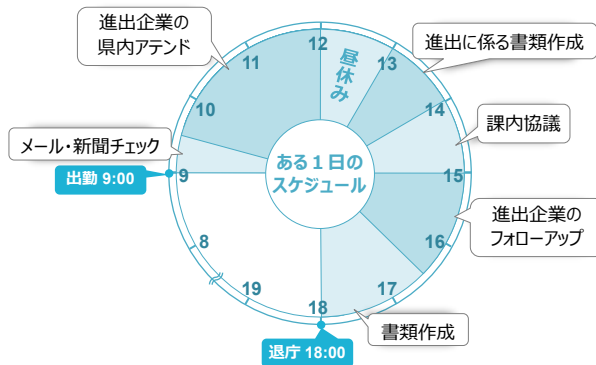
- H28.4 情報政策課(技師)
- ICT利活用推進班
- H30.4 情報政策課(技師)
- システム班

先輩職員の声

若手 企業立地課 坂野 悠司 副主査



私は平成 25 年 4 月に和歌山県に採用されました。
 これまで、田辺市にある県立情報交流センター（Big・U）の運営管理や利活用推進、オープンデータの普及・啓発に携わってきました。
 現在は、ICT 企業誘致を担当しており、県外 ICT 企業への誘致交渉、進出する際のサポートを行っています。
 県内の産業構造は製造業が中心で従来から変わっておらず、人口が流出しているという課題があります。そこで、首都圏からのアクセスの良さ、優れたロケーションに加え、働きやすいビジネス環境など、地域のポテンシャルを活かし、特に今後成長が見込まれる ICT 企業を誘致することで、新たな雇用の創出や県内産業の活性化を目指しています。
 ICT に関する取組を通じて、和歌山の活性化に貢献するため、皆さんと一緒に働けることを楽しみにしています！

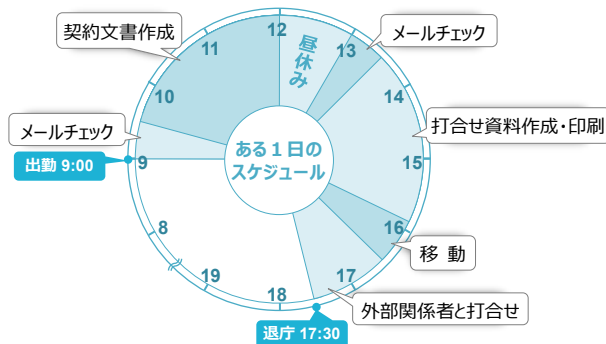


- 略 歴
- H25.4 情報政策課(技師)
行政情報化班
 - H26.4 情報政策課(技師)
I C T 利活用推進班
 - H28.4 企業立地課(技師)
 - H31.4 企業立地課(副主査)

中堅 地方公共団体情報システム機構（J-LIS） 上山 啓 主査



和歌山県では、地方公共団体としては数少ない情報系技術職として「情報職」を採用しており、私は民間の機械系メーカーで 10 年ほどソフトウェアの先行開発、製品開発及び特許出願等の業務に従事した後、平成 26 年度に採用されました。
 入庁から 4 年間は、本庁南別館にある情報政策課ネットワーク班に所属し、ネットワークや業務基盤システムを運用管理していました。技術的な課題もさることながら、予算、契約、他自治体の動向及び国からの技術的助言等、行政機関特有の課題がいくつもあって、行政職の上司や同僚の力を借りながら事業を前に進めました。
 続いて平成 30 年度からは、東京の「地方公共団体情報システム機構(J-LIS)」に出向しています。
 J-LIS は、マイナンバー、住民基本台帳ネットワークや LGWAN という国策に深く関係するネットワークやシステムを所管し、私は LGWAN を運営する LGWAN 全国センターに所属しています。
 LGWAN では、第三次から第四次 LGWAN への移行業務に携わり、自治体はもちろん、総務省や内閣官房等の府省、独立行政法人等の公共機関と何度も対面ですり合わせを行いました。その中で様々なシステムが LGWAN 上で通信していることを知り、その重要性を実感するとともに、携われることにやりがいを感じています。
 その一方で、県で培ったネットワークやシステムの知見が十分活かされており、また、プロパーや民間企業から出向している職員からは、公文書や契約書のチェック・作成依頼が度々有り、「情報職」として身につけたものの確かさを実感しているところです。
 とはいえ、行政機関の職員としてまだまだですので、今後も「情報職」としてもっと成長し、地元和歌山県の発展に貢献したいと思っています。



- 略 歴
- H26.4 情報政策課(技師)
 - H28.4 情報政策課(副主査)
 - H30.4 情報政策課(副主査)
(地方公共団体情報システム機構
LGWAN 全国センターへ派遣)
 - H31.4 情報政策課(主査)
(地方公共団体情報システム機構
LGWAN 全国センターへ派遣)

ICT 業界各社との関わり

西日本電信電話株式会社 和歌山支店

和歌山県担当者

和歌山県様は、本庁、各出先機関および全ての県内市町村を結ぶ行政ネットワーク「きのくに e-ねっと」を導入・運用しており、ICT（情報通信技術）を活用した『元氣な和歌山』の実現に向けて、弊社も微力ではありますが、連携をさせていただいております。

また、都道府県のなかでも先駆けてシンクライアントシステムの全面導入をはかる等、先進的なチャレンジに取り組んでおられ、弊社もお手伝いさせていただくなかで、進取果敢の気風を感じております。

ぜひ、その推進の原動力となられ、和歌山の発展に力を尽くしてください。

富士通西日本営業本部 関西支社

和歌山県担当者

弊社は、和歌山県様における情報システムの企画から運用／改善に至るまで、様々なご提案を申し上げます。

情報政策課様では、話題の働き方改革にも AI(人工知能)や RPA(自動処理)といった最先端技術の活用を全国に先駆けて挑戦され、成果をあげられております。

ICT 利活用による「改革」、「地域活性」など、新しい和歌山県を創る仕事に挑戦できることが、情報政策課様で働くやりがいであろうと考えております。

弊社も全力でご支援いたします！

和歌山県で働き、変えたい、という熱い思いを持つ YOU! 来たれ! 情報政策課へ!!

株式会社サイバーリンクス

和歌山県担当者

和歌山県情報政策課様と、県内すべての市町村のインターネット接続を統合・監視する自治体情報セキュリティクラウドの運営をおこなっています。

全国でセキュリティクラウドの導入が検討されていた中、和歌山県では、いち早く全市町村の意見集約をおこない、国内最速で導入を完了させることができました。

今後も、和歌山県情報政策課様とともに市町村に迅速かつ安心安全なネットワークをお届けしたいと考えております。

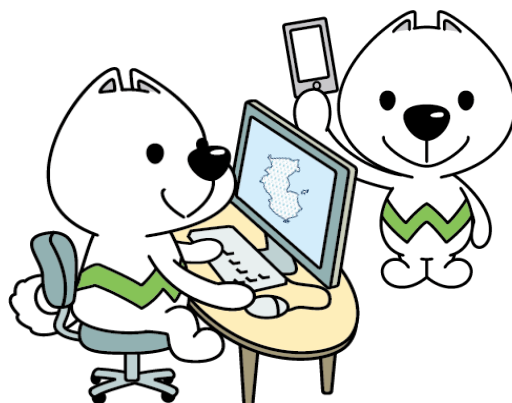
株式会社レコモット

和歌山県担当者

弊社はテレワークで活用するリモートアクセス moconavi を開発・販売するベンダーです。和歌山県とは2014年に職員の庁外活動を支援するツールとして採用いただき6年目になります。

和歌山県はテレワークという言葉が普及する前から庁外活動をされる職員の働き方の改革に取り組まれていました。moconavi 導入後は庁外でメール受送信、スケジュール調整や BYOD への採用と、先進的な働き方を安全に実現しています。

今後も全職員の方が安全かつ便利にどこでも働ける環境整備を実現できるようお手伝いしたいと思います。



<お問い合わせ先>

○職員採用に関すること

和歌山県人事委員会事務局

〒640-8585 和歌山市小松原通1-1

TEL：073-432-4111（内線 3763） 073-441-3763（直通）

FAX：073-433-4085

○情報職・当パンフレットに関すること

和歌山県企画部企画政策局情報政策課

〒640-8585 和歌山市小松原通1-1

TEL：073-432-4111（内線 2405） 073-441-2405（直通）

FAX：073-428-1136

和歌山県職員採用情報 URL

<https://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/210100/saiyou.html>

Facebook や Twitter でも情報発信しています。

試験案内の配布開始や受付開始、採用説明会の開催情報などを
タイムリーにお届けします。

